令和３年度　２学期の学校評価について

令和３年１２月２８日
筑前町立東小田小学校

本校は、自校の教育の充実に向け、毎学期末に学校評価を下の手順で実施しています。
皆様にお渡しするこの資料は、下の④【 公表 】に当たるものです。
２学期末に皆様へのアンケート調査等で頂いた貴重な回答をまとめましたので、この資料により報告しますとともに、さらなる教育活動の充実に生かして参ります。

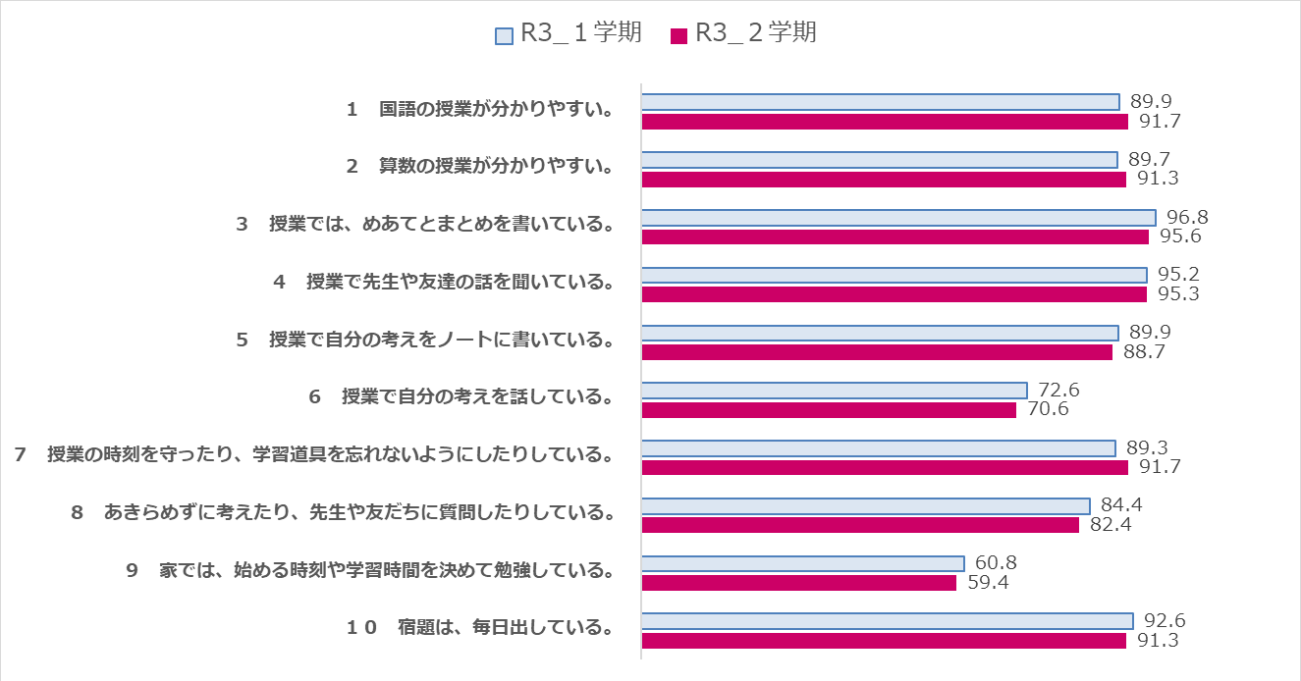
〔学校評価の手順〕
①【 アンケート 】児童・保護者を対象に学校教育に対する声を聴く。
②【 評　　価 】アンンケート結果をもとに成果や課題をまとめる（自己評価）。
③【 審　　議 】自己評価結果を本校の学校運営協議会に説明し審議を受ける。
④【 公　　表 】審議を経た自己評価を保護者・地域に公表し、町教委に報告する。
⑤【 改　　善 】公表した自己評価に従って、学校の教育活動の改善を図る。

グラフ、考察等の見方について

- ☛ 棒グラフ及び数値は、質問項目に対する肯定的な回答の割合（「１あてはまらない」「２あまりあてはまらない」「３あてはまる」「４とてもよくあてはまる」のうち３又は４を選択した児童の割合）を表しています。最大を 100 とします。
- ☛ 比較のため、今年度１学期の割合も付記しています。

１　児童アンケート

（１）学習について



項目１－６	ビルドアップ　児童が考えをつくり表現していくこと

項目１、２では、１学期同様 90 近くの数値を示している。多くの児童が、国語、算数の授業が「分かりやすい」と感じている。また、項目３「めあてとまとめを書いている」、項目４「話を聞いている」が共に高い数値を示していることから、児童は基本的な学び方が身についていると捉える。

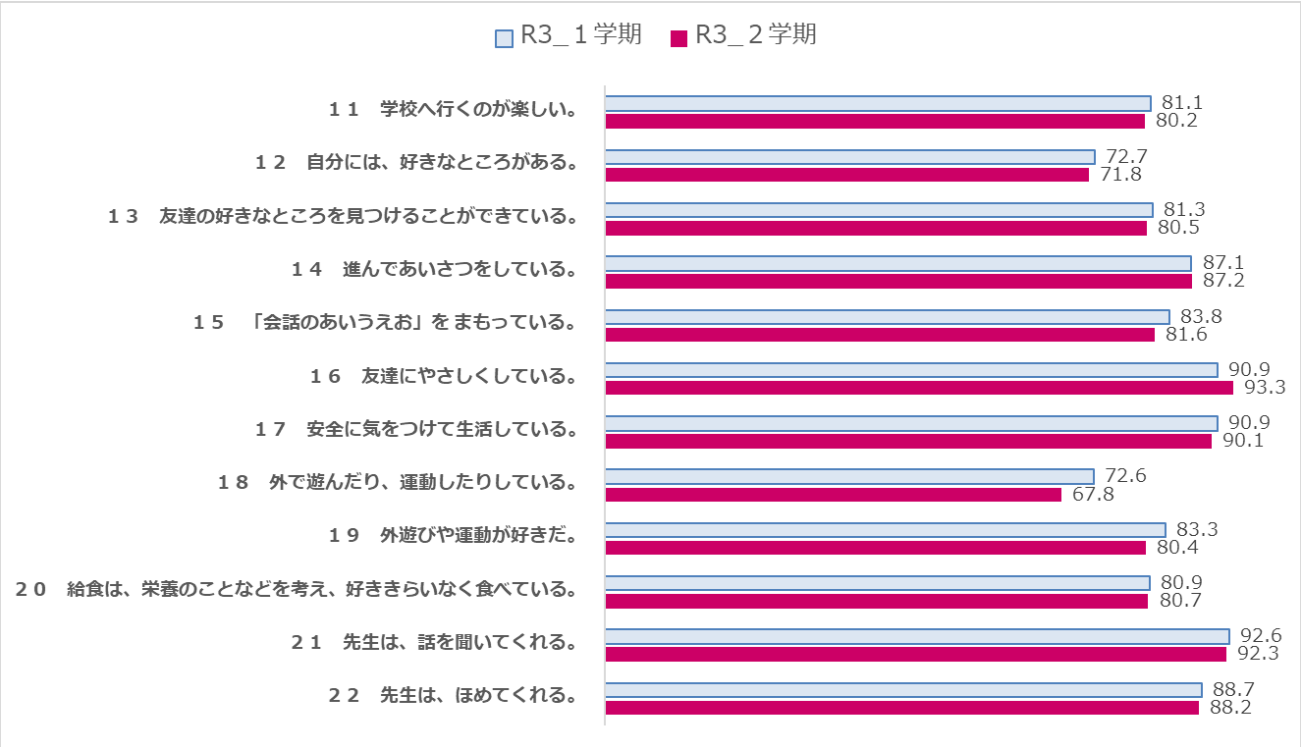
１学期の学校評価では、児童の考えを書く力、考えを深めるために表現し合う力を高めていきたいと記した。項目６「自分の考えを話している」では、３割の児童が『２あまりあてはまらない・１あてはまらない』と回答している。今後は、校内主題研究で示しているように、課題解決の場面において、児童が自分と他者の考えを比較・分類・関連付け・統合しながら考えを再構成することができるよう視点を示すなどの学習展開の日常化を図っていきたい。その際、児童が「どのように」表現・交流したらよいか具体的に示していきたい。

項目９－10	目標と評価の「見える化」・学習環境を整える

項目１０「宿題は、毎日出している」は、高い数値を示している。多くの児童は、家庭で宿題をする習慣が身についている。項目９「家では、始める時刻や学習時間を決めて勉強している」は、４割の児童が『２あまりあてはまらない・１あてはまらない』と回答しており、課題となる数値である。

２学期に行った放課後学習は、内容と方法を改善して実施した。参加した児童からは、「楽しかった」「３学期も参加したい」という反応があり、特に学習意欲面において成果があったと捉えている。家庭ですすんで学習に取り組むことが難しい児童が、放課後学習では意欲的に取り組む姿が見られたことから、学習環境（とき・場・人など）を整えることは児童の学習状況改善に効果があると捉える。また、第二学年の九九名人の取組の様子から、目標（ゴール）と評価を「見える化」することも、大きな効果がある。

（２）学校生活について



項目 11－22	「自分 OK、あなた OK」自己肯定感を高める。

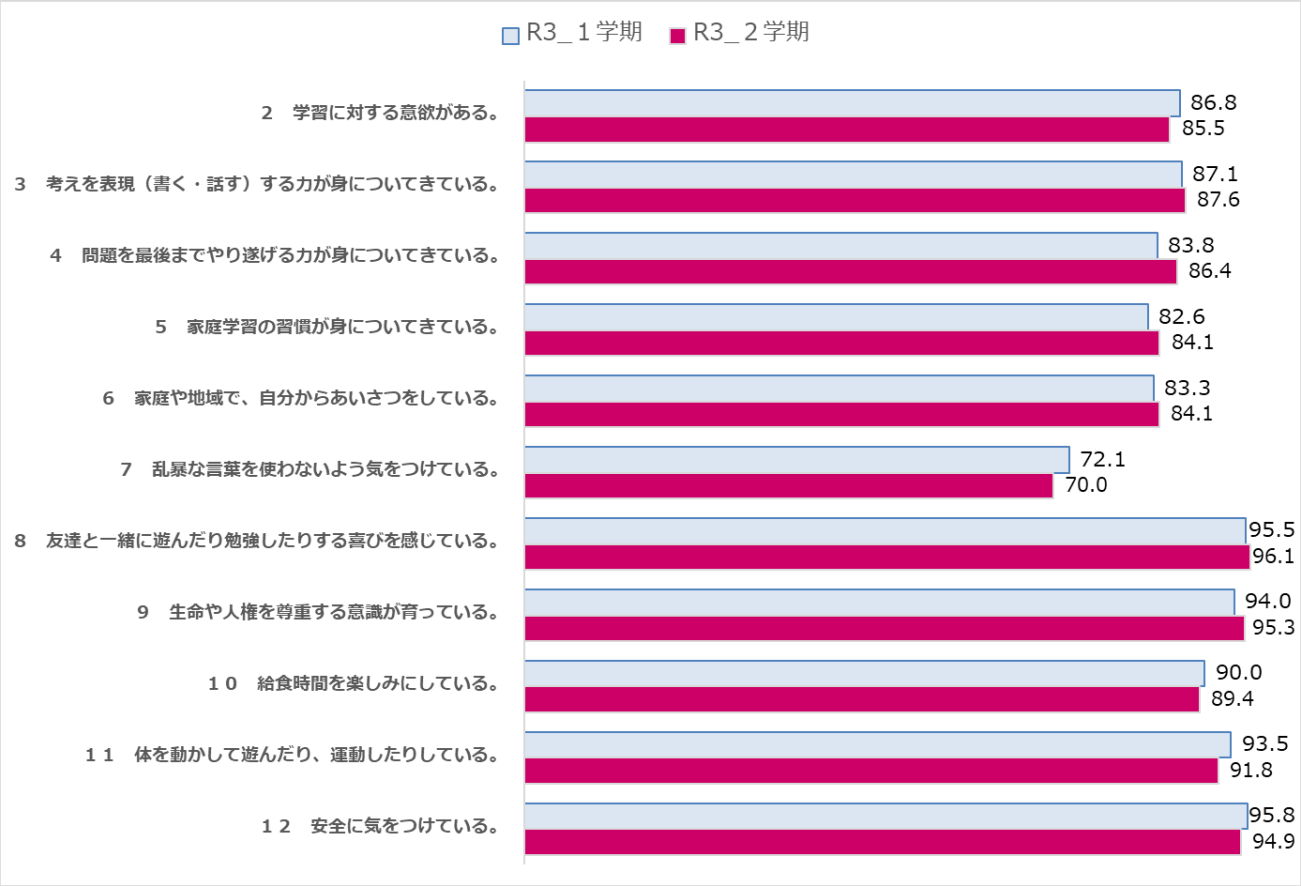
項目 14「進んであいさつをしている」は、昨年度から数値が上がっており、２学期も１学期と同等である。学校生活においても、「会釈する」「立ち止まってあいさつする」「〇〇先生、おはようございますと名前を呼びあいさつする」「おはようございます。今日は、～ですね。とプラスワンの言葉を添える」など、相手が心地よいと感じるあいさつの姿が目立ってきた。これらの姿は、教職員・家庭・地域の働きかけの成果である。また、そのようなあいさつをしている児童の表情は、自分を肯定しているように感じる。取組と評価が一体となった働きかけを継続して行うことで、児童の自己肯定感を高めていきたい。

項目 15 言葉遣いに関しては、数値としても児童の姿も課題がある。しかし、８割の児童が、「会話のあいうえおを守っている」という項目に対して、『４とてもあてはまる・３あてはまる』と回答している。多くの児童が「会話のあいうえお」を大切にしようとしている姿に目を向け、よりよい言語文化を広げていきたい。

項目 21「先生は話を聞いてくれる」では、９割の児童が『４とてもあてはまる・３あてはまる』と回答している。児童は、「先生は自分の存在を認めてくれている」と感じていることの表れである。

２　保護者アンケート

（１）学び力・こころ力・からだ力について



項目 2－5	学校と家庭をつなぐ働きかけ

項目５「家庭学習の習慣が身についてきている」は、少し数値が上がってきている。児童評価の

結果が示すように、多くの児童は、家庭で宿題をする習慣が身についている。１学期評価では、家庭学習における目指す児童の姿を具体化・共有していきたいと記した。学校から学級通信等で、児童の家庭学習状況を伝えたり、学習内容の定着を図る取組における協力を依頼したりすることは、学校と家庭をつなぎ保護者が児童の学習状況を把握することにつながっている。

【学校と家庭をつなぐ取組の具体例】
〇宿題・音読のサイン　　〇九九のがんばり表へのサイン
〇日記や自学ノートを学級通信で紹介する

教職員・児童・家庭が、家庭学習における目指す姿を具体化・共有することは、同じ視点に立って、児童の学習を応援・支援することにつながる。前述で、学習環境（とき・場・人など）を整えることを記したように、人の環境をつくることができると考える。

項目６－９	言語環境を整える。

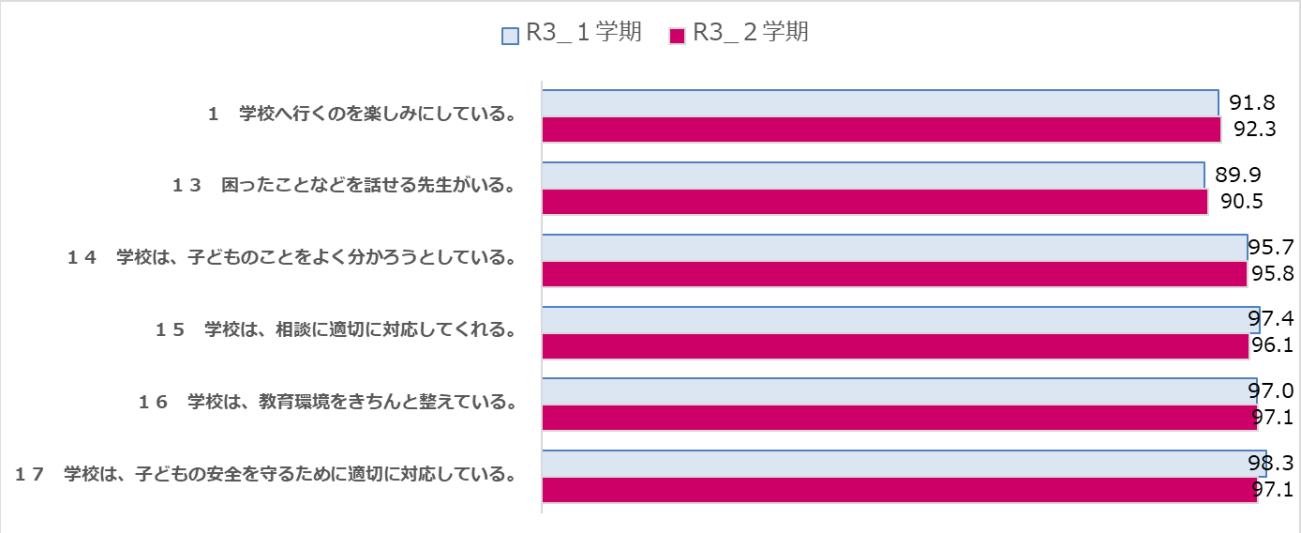
項目７「乱暴な言葉を使わないよう気をつけている」は、低い数値を示している。学校全体の言語環境は、様々な形で児童の学習活動や言語活動に影響を与えている。その当たり前の理解が、必ずしも実際の取組と結び付いていないことがあるという報告がされている。ここで、対応の基本を確認しておく。

「小・中学校学習指導要領解説［総則編］」第３章第５節の１に、「児童（生徒）の言語環境の整備と言語活動の充実」として基本的な内容が明示され、整備の例として次のことが挙げられている。

①教師は正しい言語で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと。
②校内の掲示板やポスター、児童生徒に配布する印刷物において用語や文字を適正に使用すること。
③校内放送において、適切な言葉を使って簡潔に分かりやすく話すこと。
④適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用すること。
⑤教師と児童生徒、児童生徒相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくること。

留意したいのは、ただ形を整えればよいということではなく、児童の言語活動に働きかけ、児童の適正な言語活動に機能するように工夫するということである。特に日常の言葉遣いは、子どもたちの豊かな人間関係、望ましい集団の形成にも深いかかわりがあり、細かい配慮が求められている。

（２）学校について



項目 1 13 14－17	学校は、適切に対応している。

どの項目についても、90 を超える数値を示している。特に、項目 14－17 においては、95%以上が肯定的な評価となっている。これは、教職員の児童理解、学習活動、生徒指導、保護者対応等において、学校は適切に対応していると保護者が感じていることを示している。教職員一人一人の真摯な対応は、児童一人一人を大切な存在としてかかわっているからであり、そのことは多くの保護者に伝わっている。学校に対する保護者の安心感は、教職員との信頼関係ができているからである。児童や保護者が困っていると感じているという思いに気づき、寄り添おう、話を傾聴しようとする心を大切にしながら、適切な対応を行っていきたい。

３　まとめ

皆様、お忙しい中にアンケート等のご協力を賜り誠にありがとうございました。皆様のご意見、ご指導を糧とし、コロナ禍においても家庭・地域・学校のつながりを大切にした学校づくりを進めてまいりたいと思います。

なお、本資料については、ホームページでも公表し、課題解決に努力して参ります。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いします。